

## 2026年度 入学式 式辞

本日、東京理科大学の学部、大学院、専攻科に入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんが、東京理科大学の新しい仲間となられたことを心から歓迎致します。

また、これまで、学生の皆さんとともに歩んでこられたご家族の皆様をはじめとして、ご協力、ご支援を賜りました方々に対して、この日を迎えられることを心よりお祝い申し上げます。

新入生の皆さんは、今日から、東京理科大学の仲間です。科学技術に夢を託し、科学技術で未来を創る仲間です。これから始まる大学生活、あるいは大学院や専攻科の生活では、多くの仲間とともに、新たな学びの機会が待っています。その場に立つ皆さんは、そこに広がる今までとは違う景色に、ちょっとした驚きやそこはかたない不安を覚えるかもしれませんが、未来へとつながるその美しい景色に胸が高鳴り、未来への期待が膨らむと思います。

大学は、人生の中で、知的能力が大きく伸びる時期を過ごす場所です。学部の低学年では、必要となる知識や科学技術の基礎を学びますが、学部の高学年、ましてや大学院での学びは、真理の探究や価値の創造が求められます。学部の卒業論文や大学院での研究では、何が問題かがわからなかったり、問題が見つかったも、どう解決すればよいかかわからなかったり、一人だけではとても解けない問題に直面したり、といったことが頻繁に起こります。

とはいえ、研究を進める中で、自分が考えた自分だけの問題が解けたときの感動は、入試問題が解けたときの感動とは全く違います。入試問題は、他の人も解きますが、自分だけの問題は、その問題に気が付いた人だけが、解くことを許されていて、その問題が解けたときには間違いなく初めて解いたという栄誉が与えられるからです。他にも、自分が設計した新しいシステムが動いた時の感動は、例えば、プラモデルが完成した時の感動とは全く違います。プラモデルは誰でも作れますが、自分で設計したシステムは、他の人には作ることができないので、その動作を目の前で見ることができるのは設計した自分だけだからです。

このような感動を経験するには、皆さんは、真理の探究や価値の創造といった科学技術が本来求め続けている目標に向かって、自分自身が情熱を傾けられる世界、心が躍る世界に飛び込めるかどうか重要です。探求すべき真理や創造すべき価値は、将来の結果でしかわかりません。加えて、科学技術に価値があるわけではなく、科学技術がつくる世界に価値が生まれます。従って、もし事前に価値がわかっているのであれば、取り組む問題の独創性は低いこととなります。また、知識をいくら集めても真の独創性は得られません。どんな小さなことでもよいから、その結果が世界で初めてのことにつながることが必要です。

このことをよく考えると、何を選ぶかはそれほど重要ではありません。大切なのは、選んだ道でやりたいものを見つけ、その道を力強く歩むことです。選ぶのに時間やコストを掛けるよりは、目の前の道を前に進むことに時間やコストをかけることの方が大切です。

そのためには、好きなもの、好きなことを見つけてください。根拠なんて必要ありません。皆さんは、自分の好きな食べ物、好きなスポーツ、好きなファッションなどがあると思います。これからの皆さんの学びでも、自分が好きだと思うものを見つけてください。理論が好きならば理論解析や理論構築を、実験が好きならば最先端の実験を、システム構築やデザインが好きならば新しい時代のものづくりを目指してください。好きなことをとことん楽しむことが研究を極めることの必要条件です。何か面白いと思ったことを見つけたら、そこに飛び込んでほしいと思います。皆さんの心の中で、湧き上がるチャレンジ精神に躊躇することなく火をつけてください。うまく行かなかつたら他のことに再度チャレンジすればよく、チャレンジの火を絶やさないことが重要です。

東京理科大学には、様々な講義があり、数多くの研究室があります。大学として、皆さんが楽しく研究を極めることができるように、できる限りそのチャンスを逃さない環境を整備することに努めています。科学技術への熱い思いがあれば、皆さんの好きなものが東京理科大学の環境の中できっと見つかると思います。

私自身も、学生時代に様々なものに興味を抱き、様々なものにチャレンジしました。自分だけの問題を見つけたのですが、解けなくて右往左往していた時、ある日突然、教養で学んだ数学の定理を使うとエレガントな構造がきれいに説明できるということが分かった瞬間、とてつもない感動が湧き上がってきました。この瞬間は、基礎を学んだうえで、思考を巡らしたものにだけ与えられたセレンディピティだったと思っています。他にも、世界で初めてのシステムが目の前で動いた時も、嬉しくて涙が出るほどの感激を味わうことができました。我々科学者は、好きなことを極めることで、世界で初めての光景に立ち会い、科学者だけが味わえる感激に浸りたくて、チャレンジを続けています。

学生や教職員だけではなく、東京理科大学という組織も新しいことに取り組んでいます。近年の情報科学技術の進展は目を見張るものがあり、情報科学技術による社会の変革が急速に進んでいることは皆さんも感じていると思います。この変化に対応し、情報を基軸とした新たな学びを提供するため、東京理科大学では、データサイエンスの全学的教育体制の整備をはじめとして、様々な新しい取り組みを行っています。特に、今年度、創域情報学部と理学部第一部科学コミュニケーション学科を創設し、今日の入学式に、この新しい学部と学科の一期生を迎えることができました。

本来、情報という言葉は、生き生きとした心やものごとの真の状態を形にして伝えることを意味していました。ところが、現代における情報という言葉は、その活用範囲が広がるとともに幅広い意味で使われるようになりました。特に、科学技術における情報は、真の状態のみならず、それに付帯する様々な状態や関係をも包含し、情報科学技術は、それらを活用する技術として位置づけられています。

旧来、科学技術の基本要素は、「物質」、「情報」、「エネルギー」であると言われていました。この背景には、これらの存在自体に価値があるという考え方がありました。これに対して、今後の科学技術を構成する重要な要素は、現実空間の構造を扱う「物理」、モデル上の構造を扱う「数理」、サイバー空間の構造を扱う「情報」の3つであると思います。しかも、旧来のように存在だけに意味があるのではなく、物理構造、数理構造、情報構造が、現実空間、モデル空間、情報空間で相互に繋がることが現代の科学技術の基盤であるべきと考えています。この場合、情報の意味するところも大きく変わり、単なる状態の表現という意味から、情報空間の状態と構造を現実空間やモデル空間との関係も含めて表現するものとしてとらえる必要があります。

この意味から、情報科学技術は、情報空間だけの技術ではなく、サイバーフィジカルシステムやデジタルツインなどと呼ばれるように、「物理」や「数理」と一体のものとして考える必要があります。このことは、とりもなおさず、情報科学技術そのものの深化とともに、科学技術のそれぞれの分野における情報科学技術の醸成が必要であることを示唆しています。すなわち、情報科学技術を専門としない分野でも、情報科学技術の活用により、新しい真理や価値を生み出す可能性が極めて高くなってきています。東京理科大学でも、情報系の分野はもちろんのこと、理学系、工学系の諸分野、薬学や経営学の分野において、情報科学技術の積極的導入とそれぞれの分野での活用促進などを進めていく予定です。

このように、学生、教職員、そして大学が、たゆまぬチャレンジを続ける中で、夢は皆さんの手の届くところにあります。ただし、向こうからはやってきません。夢は見るものではなく、自らの手をつかむものです。他の人と同じことを学ぶだけで得られるものではありません。常識を疑い、他の人が考えていない新しい視点を持ってチャレンジすることで、未来にあるべき真理と価値をいち早く獲得することが重要です。視線を今に注ぐのではなく、夢が手に入る未来を見つめてください。大学人には、思考の自由があります。一方で、科学技術には、真理という正義が存在します。自由な思考を巡らし、未来に向けて正義感を持ってチャレンジすることで、皆さんは夢をつかむことができ、大きな感動が湧き上がってきます。

東京理科大学では、これから始まる新しい学生生活の中で、新しい学問との出会いとともに、友人や教職員との出会いがあります。もしかしたら、今隣に座っている人、最初の講義

で話をした人、サークルや研究室で同じ時を過ごした人などが、気がつけば、一生のかけがえのない友人となるかもしれません。様々な出会いの中で、皆さんの未来が形作られて行きます。その未来を、そして皆さんの夢を皆さん自身の手でつかみ取ってください。東京理科大学は、自分で考え、自らの道を見つけ、そこに飛び込む皆さんを応援します。東京理科大学での皆さんの学びや出会いが、皆さんの人生の礎となることを心から願って私の式辞と致します。

2026年4月9日  
東京理科大学  
学長 石川正俊